

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792500163		
法人名	株式会社ユーアイプラチナ		
事業所名	アイフロント神田		
所在地	池田市神田3丁目2-2		
自己評価作成日	令和4年1月20日	評価結果市町村受理日	令和4年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和4年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アイフロント神田の「その人の今を大切に！そして笑顔に！」の理念をスローガンにご利用者の思いや気持ちに寄り添ったケアを心がけています。  
 ご利用者にとって居心地が良く、ご本人が必要とされている思いを以て頂けるよう、様々な事柄に協力を求め、実践を心がけています。  
 ご利用者に対し、常に細やかな気づかいや心配りを心がけ、毎日笑顔で過ごせるよう日々ケアをしています。  
 スタッフ同志のコミュニケーションの良さも、当施設のアピールポイントです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の法人は池田市、豊中市を中心に複数の介護福祉事業を展開している「株」ユーアイプラチナである。優愛(ユーアイ)の精神で、真心と笑顔をモットーに利用者、家族の健康を願い、職員にはやりがいを持って働ける職場環境(研修、保証制度など)の整備に努めている。事業所周辺には田や畑があり、四季の移ろいをゆっくり楽しめる自然との触れ合いがある。利用者は天気の良い日には部屋に閉じこもるのではなく冬の寒い日、夏の暑い日も利用者個々に合った散歩コース(車の通らない道、近くの神社、河川敷)を選んで職員と1対1の散歩を楽しんでいる。散歩中に出会えた地域の人には笑顔の挨拶を交わし、時々新鮮な季節の野菜やおみかんを頂くなど、地域と良い交流を続けている。職員間はコミュニケーションがしっかりできて明るい雰囲気がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の理念「その人の今を大切に！そして笑顔に！」をスタッフ皆で共有し、が利用者の思いに寄り添い、日々安心して過ごせる施設作りを心がけている。	事業所独自の理念は「その人の今を大切に！そして笑顔に！」と職員皆で考え決めて、リビングの見やすい場所に掲げている。パンフレットにも掲載している。コロナ禍以前は運営推進会議でも読みあげていたが、現在はスタッフ会議時にお互い確認し、日々のケアで実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初から行っている近隣の掃除をしながら挨拶を交わし、交流を心がけている。	自治会に入会していたが、地域は高齢化が進み退会者が多く解散になった。毎朝、近隣の掃除をしている時や散歩時に会う地域の人と挨拶を交わしている。野菜や果物(みかん)を頂くなど地域との繋がりは良好である。コロナ禍前は中学生の職業体験の受け入れやボランティアの受け入れもあったが現在は中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者との毎日の散歩の際、地域の方々とは挨拶を交わし、世間話をしたりと交流を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、施設に集まったの会議は現在行っておりませんので意見交換の場は持っておりません。	運営推進会議は年6回、池田市地域支援課職員、調剤薬局の人、家族、利用者、計画作成担当者、管理者で行われている。現在はコロナ禍で意見交換の場は持てないので書面開催となっている。議事録は役所には届けて、家族や関係者には送付している。外部評価の結果は希望者があれば開示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	池田市の地域支援課の担当者の方とは、役所へ出向き、さまざまな事柄で話す機会を設けるように心がけている。	地域支援課には書類申請や運営推進会議の報告、空室の獲得相談等、様々な事柄で出向いている。地域支援課職員は運営推進会議の参加メンバーであるので相談も気軽に行える関係が出来ている。グループホーム連絡会は以前は行われていたが現在は行われていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設において、身体拘束はもちろん、スピーチロックについても研修を実施している。施錠については、帰宅願望が強いご利用者もおられるため、臨機応変に対応している。	身体的拘束等の適性化のための対策を検討する委員会を3か月に1回以上開催し、適性化のための指針、マニュアルの整備もしている。職員は身体拘束、スピーチロックについても研修などを行って、身体拘束の正しい知識の理解に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に繋がらないよう、具体的な事例について、朝夕の申し送りやスタッフミーティングでディスカッションしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外において研修を受講出来るよう体制を整えている。当施設では1名が成年後見人制度を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、ご家族に重要事項説明書の内容を全て読み上げ内容をご理解頂いたうえで契約を締結している。後に不明点等あれば、随時説明をさせていただく旨をお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の意見や希望はケアプラン作成の際、ケアマネが聞き取りを行い、スタッフにも周知している。ご家族の意見はサービス担当者会議にて確認を行っており、施設玄関脇にご意見箱を設置している。	利用者からは日常関わる中で意見や要望を聞いている。家族からは通常の面会時やケアプラン作成時に聞き取ったことをケアに活かしている。最近、家族の要望としてかかりつけ医が遠い市外に在籍のため緊急時に不安との声があり、近距離のかかりつけ医に変更している。コロナ禍で面会も難しいので、アイパットやオンラインを使用するなど工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝夕の申し送り及びミーティングで気づきや意見交換を行い、皆の意見を周知できるよう工夫をしている。 月1回以上、基本は全員参加のスタッフ会議を行い、活発にディスカッションしている。	毎月のスタッフ会議や朝夕の申し送り、ミーティングの場で普段から意見、要望は気軽に言える職場環境がある。職員の要望(炊飯器購入)や提案(季節の花球根植付け)など、日常的に気づきやアイデアを表せる機会はある。年1回の代表との面談では職員の支援(最近のコロナ感染自宅待機者全員にシフト通りの休業補償)の体制もできている。管理者と職員は随時個人面談が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は施設スタッフと個々に面談のを行い、目標に向けての支援制度が会社として整備されている。 管理者とスタッフ間では、定期的な面談の他、様子が気になるスタッフとは都度話を聞くよう心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修については、スタッフ一同での受講は不可能なので個別での対応を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍以前は三ヶ月毎に開催されていた池田市のグループホームの連絡会に参加し他施設との交流を図っていたが、現在はそれが難しい状況である。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご家族やご利用者と面談を行い希望や要望、不安や困りごとを聞き取り、気持ちに寄り添い、施設での決まり事もご理解頂き、ご納得頂けるまで話し合いを行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際に、ご家族からご利用者の興味・関心チェック表を用い、生活歴等の聞き取りをおこない、ご利用者が溶け込みやすい環境作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の現在の状況の聞き取りを聞き取り、ひつような支援をケアマネを中心に、スタッフと共にディスカッションし検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフはご家族の気持ちとなり、ご利用者に出来ることをしていただけるような環境を作り、自分が必要な存在であると感じてもらえるような声かけを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも施設と関わって頂き、協力を仰ぎながらスタッフと共に普段から様々な事柄に関わりを持って頂けるようお願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の現在は、面会等を制限しているが、通常は、が家族、ご親戚、お知り合いが訪ねて来られれば、ゆっくりお話いただけるよう配慮している。	以前は近所の知り合い、友人、親戚、家族などの訪問があり、居室でゆっくり談笑出来るように支援していたが、コロナ禍で面会制限のため、数名の家族とオンラインなどで面会の案内をしている。文字を書くことが難しくなってきた、手紙を書く利用者はいないので、家族、知人からの電話での交流を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳の聞こえが悪いため言い争いになることがあるが、ご利用者同志の関係は概ね良好である。 仲違いが起こったときには、スタッフがさりげなく仲を取り持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の理由が如何なる場合でも、困りごとや心配事が有れば、ご相談してもらえようお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	興味・関心チェック表をもとに、生活歴や趣味、興味のあることをご契約の際に聞き取りをしケアに反映させている。	入居時に本人、家族からの生活歴や趣味等の聞き取りと、更に詳細なシート「興味、関心チェック表」を家族から貰っている。本人の趣味や興味(園芸、洋裁、読書等)は職員間で情報を共有し、入居当初の不安を和らげるために、職員はこのチェック表が生かされている。興味のあることや好みを会話の糸口とするなど、緊張感を和らげる努力をし、利用者の思いや気持ちに寄り添ったケアを心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	興味・関心チェック表をもとに、ご家族からご利用者の詳細な情報や、今までの経過を細やかに聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや、目視での様子観察や会話から、その日の状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の状態を把握し、ご家族とのサービス担当者会議を実施(コロナ禍の現在は、電話やオンラインで)し、それを基に介護計画書を作成し、変化が無ければ半年に1度見直しをする。状態に変化があれば、都度見直しをする。	本人、家族、必要な関係者と話し合い、個人記録、申し送りノート、業務日誌等で得た情報と支援経過を参考にして、生活全般の解決すべき課題をあげ、現状に即した介護計画を作成している。 状態の変化がなければ6ヶ月に一度の見直しをしている。状態変化があれば、その都度、見直しをして、主治医に相談し服薬調整も計画に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の送り、夕方のミーティングで、情報の共有、意見交換を行い、記録を基に状態の変化等の把握及び、必要に応じて介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の状態は日々変化するのでその日に応じた柔軟な対応をし、その日その日に応じたケアを心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して暮らせるよう池田市や自治会と連携を図りながら支援を行っている。豊かな自然や歴史ある街を散歩し楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	施設の訪問医以外の科の診察は、基本家族対応をお願いしているが、ご家族での対応が難しい場合は臨機応変施設で対応している。。調剤薬局との連携も取れている。	契約時の説明により、協力医療医師を主治医とする人、それ以外の方がそれぞれに月2回の訪問診療を、全員が歯科医の訪問診療を受けている。本年2月から2人が精神科医の月1回の訪問診療を受け、その他の専科については、家族対応を基本としているが、必要に応じて事業所対応としている。薬剤について効用や変更について薬剤師から丁寧に説明があり、家族へは医師より説明している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の様子と変化が見られた場合は、当施設には看護師の配置がされていないため、速やかに訪問医に連絡し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は施設内での情報を提供し、退院時にはカンファレンスを希望し、看護サマリーをお願いしている。病院とも連携を取り、地域連携室の相談員さんとも対話をしている。(現在はコロナ禍のため、電話でのやり取り。)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、ご家族、施設管理者、ケアマネジャーと話し合いの場を持ち、看取り時に来ること出来ないことなどを説明し、ご家族の思いもお聞きした上でターミナルケアの締結を行っている。	重度化や終末期対応について、契約書の・医療機関との連携・医療行為及び看護行為の実施について、2項目で詳しく説明している。穏やかに日常ケアの継続のなかで看取った、自然死(老衰)への対応経験がある。重度化・看取り対応については必要に応じて話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を貼り出している。消防訓練のさい、消防士さんから応急手当や初期対応の教えを仰ぐ。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害時は町会やご近所の方に協力をお願いしている。北神田町会には、ご家族が了承している方のみ利用者情報を開示している。5月・10月に消防訓練をし、備品の準備もしている。	コロナ禍で消防署の立ち合いはないが、利用者も参加して既定の訓練を行っている。設立当時の近隣や町会との協力関係は、自治会解散や住民の高齢化もあり継続は難しいとしている。一般的な災害対策を有し、必要な備蓄品を保管している。水害時に土嚢が市より配備される事を確認している。	各種の災害に備えて、立地・構造・利用者状態・職員体制に応じた、事業所独自の対策について協議したマニュアルの整備を望む。条件的にも難しいであろうが地域との協力体制づくりへの努力と、BCP策定に備えてインフラ停止想定での生活・ケアの実体験に期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるとの思いから、尊敬や敬いの気持ちを持つての対話や対応を、スタッフ一同心がけている。	日々違う「その人の今を大切に」にすることを念頭に、個々人の性格・生活歴・職歴などを理解し、傾聴する・否定しない・言葉使いに注意することを基本にした接遇に努めている。夫々に違う認知症の症状とADL低下状態を「その人らしさ」と受け止めて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者一人一人との対話を大切にし、話しやすい環境づくりを心がけ、ご本人の思いを尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅での生活と変わりなく過ごせるよう、起床、就寝の時間を決めていない。日中の昼寝も自由にしている。何事も無理強いせず、希望を確認し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の好みを普段の対話の中から把握し、朝の更衣時や、お出かけの時にはお好みものを選んでもらい、時にはアドバイスしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前には嚥下体操を行い、一品ごとにメニューを伝え、スタッフの声に合わせて「いただきます！」と発声を促す。下膳や片付けを利用者と共に行っている。月に2.度程手作りの昼食やおやつ作り、時には外食(コロナ禍以前)を楽しんで頂いている。	業者搬送のクックチルドを盛り付け、炊飯と汁物を作って提供している。お節料理や節分の巻きずしなど季節的な行事食は手作りで、月1回の昼食は希望のものをテイクアウトなどで、月1回のおやつ作りと食べる楽しみについて工夫している。特注の車イスの人以外は椅子に、刻み・トロミと嚥下に注意しながら、嫌いについても刻むなどの工夫で食している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分接種1200ccを目標とし、食事摂取量も記録している。水分量、食事摂取量の不足を把握し適正量が摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの促しの声かけをし、ご自身で難しい方はスタッフが介助しケアを行っている。月に2度訪問歯科を受診し、結果をスタッフで共有し医師の指示通りケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の排泄パターンを把握し、その方に応じて声掛け、誘導を行っている。トイレで排泄が出来るよう、スタッフが細目に誘導し、根気強くトイレ介助を行っている。	重度化・認知症の進行などで布パンツの人は減り、現状では全員が紙パンツ・プラスパット使用だが、トイレで排泄を心掛け個々人に沿った声掛け誘導を行っている。個人差はあるが、排便のコントロールが難しい場合は、不穏状態にも繋がるので医師に相談して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘改善に水分補給や食事、おやつの内容に気をつけている。水分は1日1200ccを目標とし、毎日の体操にも便秘の解消に役立つ体操を取り入れている。水分摂取が難しい方には、寒天ゼリーにし、摂取してもらえるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スタッフのシフト上、1週間の入浴予定を決めている。入浴は個浴で基本は週2回。浴槽のお湯は、おひとりずつ交換している。	週2回、午後を入浴タイムとしている。現状では全員が湯に浸かれる状態で、職員との1対1の時間をゆっくり楽しんでいる。極端な風呂嫌いの方が、3ヶ月ぶりの入浴後に週1回の入浴にこぎつけた経験もあるが、その日その日の工夫で、全身チェックを含め全員が入浴できている。利用者全員が女性で、うち2人は希望で同性介助を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自宅でお昼寝の習慣のあった方には、様子を見ながら居室での昼寝を促したり、夜間もリビングでのご様子を観察し、就寝の声掛けをし居室へ誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局と連携し、薬の管理をお願いしている。服薬内容が変更になった時は、変化や効果を見極めるよう、注意深く観察を行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の有する能力を把握したうえで、掃除機かけ、モップかけ、雑巾がけ、洗濯物たたみ等、その方の出来ることをしてもらっている。嗜好品は、ご家族がお持ち頂いている方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や、施設で企画した外出、外食レク、ご家族と外出される方もおられ、ご家族との関わりも大切にしている。 (散歩以外は、コロナ禍のため現在は中止している。)	観桜や外食、家族との外出などは全て自粛中だが、四季を通して天候の良い日は毎日午前中に、全員の体調に合わせて近くの河川敷や神社、周辺など3コースの散歩を継続している。遠方施設などへのお出かけ、コロナ禍でもあり家族の意向でショッピングセンターへの買い物は経験していない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設では、基本金銭の所持は必要としておりませんが、外出の機会に必要であれば、ご家族にお話し、お金を預かるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	当施設では、現在手紙のやり取りをされる方はおられません。電話については希望があれば、間を取り持ち対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりのいい場所に食卓を配置し、窓飾りを眺めたり、時には窓の外に花を栽培したり、居心地の良い空間となるよう心がけている。トイレには、場所が分からない方のためによく表示している。	レクリエーションでの作品や月1回の習字の張り出し、水やりなど育てている花壇の草花、季節の生花などを飾るなど、全体が無機質にならないように心掛けている。ソファを設置した一角では、新聞や雑誌を読む人、傾眠する人と思いいきに過ごしている。天窓の開放で換気を行い、定期的な消毒で感染防止に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓とリビングのソファの配置に距離をとり、ご自身のお好きな場所で寛げるよう工夫している。居室でお過ごしの方には、食事、おやつ、レクの時間には声掛けを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約の際、ご家族にご利用者の好みの物や、使い慣れたものをお持ち頂くようお伝えし、入所後も安心してお過ごし頂けるような居室作りを相談しながら行っている。	ベッドと寝具類・チェスト・ハンガーラック、クローゼット、洗面台、防災カーテンが既設された居室は、使い慣れた小家具や仏壇・テレビ、家族写真やレクでの作品で整えられ、安全に留意した設えとなっている。出来る人は毎朝職員と一緒に掃除している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内に手すりを設置し、安心安全にご自身で移動してもらえるようにしている。トイレや浴室には、目視で分かりやすいように大きな文字で表示している。		